

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0370500639		
法人名	特定非営利活動法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホーム だんけ胡四王		
所在地	花巻市胡四王1-15-3 (電話) 0198-32-1007		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成19年 6月 22日	評価確定日	平成19年 8月 20日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 23日 昭和・平成 17年 10月 14日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 5人, 非常勤 15人, 常勤換算 13.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 一部2階建 階建ての 階 ~ 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500~29,100円	その他の経費(月額)	600 円
敷 金	有(100,000円)	有りの場合	有/無
保証金の有無	無	償却の有無	
(入居一時金含む)	朝食 350 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 150 円	
食材料費	または1日当たり 円		
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.8 歳	最低	65 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合花巻病院・ちば心療内科・藤巻胃腸科内科クリニック・八森歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員の理念に対する理解と共有が良くなされており、あらゆる場で理念の具体化に向けて取り組みが行われている。
評価・計画立案・実践・計画のサイクルが確立され、職場全員がミーティングを通して取り組み方を共有して日常の支援に努めている。
共用空間の茶系色彩の柱・梁・障子の建具など、高齢者の心を和らげる様な配慮、冬場の薪用の暖炉、それに用いるために建物周囲に積みあげられた薪のある風景は利用者にとってなつかしい思い出になる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	常に評価の上に立って新しい計画を立て取り組んでいる。具体的には、職員全体が問題点と対策を文章で記述し、ミーティングの中で反省点や新しい取り組みを共有化している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価に取り組んでいる。特に理念に基づいての実践が具体化しているか否かを日常の支援活動と照らして評価にあたっている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議を通して「だんけ胡四王」を理解していただくことに力点を置いて来ており、その成果は上がってきている。今後は今までの上に立って、委員から運営について積極的な発言・意見が出る様な運営推進会議の内容になることを期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への連絡報告は連絡記録簿などを活用して行っている。記録簿によれば、この顛末まで記録されており、それが次の取り組みへのステップにもなっている。現状では家族の意見・要望は少ない。いかにして家族の声を吸い取るかの工夫も望ましい。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は多岐にわたっている。特徴的なのは、毎週、金曜日に地域・老人クラブの12人の女性がグループホームの一室に集い利用者と交流する「金ママ」の存在である。ホームとしては託老所と位置づけている。地域密着型の一部としているが、自治会への加入を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員でこれまでの理念を基にし、地域の中で「人々とのふれあいを大切に」に意を込めて新しい理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が話し合っって作った理念。採用時に必ず理念を説明している。説明を受けている。ホーム内に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中では、近くの賢治記念館、博物館などに度々出かけふれあう。また、除草(地域の)作業などに参加、保育園児の神楽、老人クラブの金ママの会は特徴的である。広報を地域(6つの班)に回覧している。	○	地域自治会に加入し、より一層関係を深めて行くことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は自分たちの活動がマンネリ化しないよう反省と新しい取り組みへの良い機会であり、職員全員が問題点とそれへの対策を文章にまとめ、ミーティングしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	最初、一年間は「だんけ」を知り、グループホームについて理解していただくことと、委員の方々からは地域の情報を得るような運営であった。	○	今後の運営推進会議は、今までの進め方を更に充実させると共に、委員の意見・要望を積極的に求め、それを運営に反映できるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者との接触は多い。市の委託によって年3回の「介護予防教室」を地域民を対象に実施している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の連絡については連絡記録簿に記帳されている。その項目は日時・家族・方法・連絡者・連絡事項・回答・顛末となっている。広報を定期的に配布。金銭管理は2ヶ月ごとに出納カードを送って状況を報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族への報告・連絡を定期、あるいは必要な都度行ない、意見・要望を求めている。そして出された意見・要望は反映させるようにはしている。意見・要望が少ないのも現状である。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新旧の職員を組ませる配慮をする中で、利用者も職員もユニットを越えた交流を持ちながら全ての利用者職員が馴染みが持てる工夫をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に参加した職員は、内部で研修内容の伝達をするシステムを確立し、実行している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回、県のグループホーム定例会、2ヶ月に1回、地区内(花巻・北上・奥州・遠野)の意見交換・研修会を持っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はせつばつまった状況にあるが、利用者家族とよく話し合い、ホームの説明と共に生活経験をしていただくなどの中で、職員にも馴染めるようなことなどを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・職員がお互いに暮らしの中で共に支え合うことを理念にも掲げ、実践している。 昼食の準備や後片づけ時に、上記の様な場面を垣間見ることができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・職員がお互いに暮らしの中で共に支え合うことを理念にも掲げ、実践している。 昼食の準備や後片づけ時に、上記の様な場面を垣間見ることができた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員に個人の状況を文章で記述し、合わせて今後の対策も記述し、それを基にミーティングし、出て来たものを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティング、家族の意見も求め、3ヶ月ごとに見直しをしている。見直し以前の変化への対応は家族にも連絡し現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの一室を開放して、金曜日に地域の高齢者が昼食持参で集い楽しむ機会としている。これを「金ママ」と呼んでおり、グループホームの利用者・職員との交流を持っている。尚、金曜日以外でも希望する人は訪れても良い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が、かかりつけ医を持っており、受診の場合は原則的に家族が同伴する。そのことが利用者の健康状況を家族が理解できることにもなるし、家族と職員との情報交換の機会ともなる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重することを前提に、看護師資格を持つ職員を中心に学習会を持って、ターミナルケアに対するあり方を共有できる様に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に、守秘義務について説明し、誓約書を取ると共に、個人情報以外のプライバシーについて日常支援の中で留意する様に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に対するヒアリングでも「利用者一人一人、個性があるので、それぞれの利用者の立場に立って、何を望んでいるかを理解しながら支援する努力をしている」との発言を得た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時とその前後の利用者と職員が一緒になって動いている状況を実見することができ、常日頃の様子が垣間見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活歴・利用者の希望などを考慮して入浴の時間帯を設定しており、利用者本位に入浴を楽しんでいただく様にする。入浴に際しては、健康チェックもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担をしながら、それぞれの能力に応じた生き生きとした動きが昼食時に実見され、日常の状況が垣間見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者について、いつ、だれが、何をやったかを表にまとめ状況と傾向を把握しながら、一人一人の希望を生かす工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の意向をくみとり、積極的に散歩やドライブに誘う。特に外出志向の強い利用者の場合は、職員のさりげない見守りと共に、可能な限り、意向に沿うよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害にあたって最優先に行うことは利用者の避難と命を確保することが職員の一致した見解である。消防と地域の人々にも協力を得て避難訓練を実施した。緊急連絡網なども備わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持つ職員が中心になり、バランスのとれた食生活や水分確保ができる様な支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の柱・梁は茶系の色彩、窓や戸は障子がアレンジされ、高齢者にとっては和風で親しみがあり、落ち着いた雰囲気である。備えられている薪用暖炉も柔らかい木のぬくもりに季節感がある。薪は近隣の農家からのリンゴの枝である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた馴染みのものを居室に配置し、過ごしていることが実見できた。		